



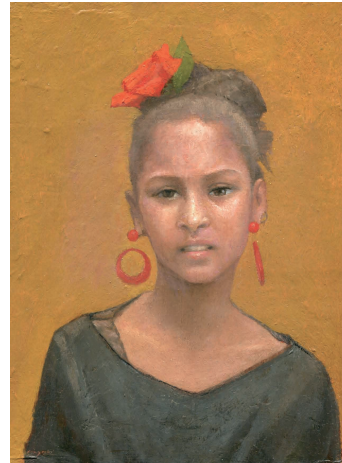
「HÔTEL」2017年 20×15cm

林哲夫展
niigata eye exhibition 553

2018
4/17[火]—30[月・昭和の日振替休日]

11:00—18:00(最終日—17:00)

新潟絵屋 4月の企画展



「少女」2017年 20×15cm

淡味のある写実

林哲夫の描くマロニエの樹は、さらりと描いてあるようだけれど、目を近づけると枝の先の小枝の先の小小枝まで描きこまれ、さらに枝と枝の入り組んだ空間的位置まで把握できる。

細密写実と言っていいほどなのに、そういう絵にありがちの力こぶ感がなく、不思議な淡味がある。昆布やカツオや椎茸のだしは、それだけでは物足りないが、くせになり、さまざまな味を引き立てる淡味なのだそうだが、そういうだしのような味が、どの絵にもきいている。

このだしは、〈文学〉かもしれない。文学が大きさなら、言葉。

言葉を扱うことは一種の抽象の作業だから、絵と同じくらい(それ以上に?)言葉に浸かっているもうひとりの林が、細密写実の固くなりがちな画面を、ほどよく緩め、すき間を作っているのだ。

そのすき間にふきこむ明るい、灰色の、知的な微風が、静かな画面を波立てることなく、絵をリアルから浮遊させる。(企画者:大倉 宏)

林 哲夫(はやし てつお)

1955年香川県生まれ。画家。武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業。「創と造」展(五都美術商連合会、2016～)出品。編著・装幀に『書影でたどる関西の出版100』(創元社、2010)、『書影の森—筑摩書房の装幀 1940-2014』(みずのわ出版、2015)、『花森安治装幀集成』(みずのわ出版、2016)他。

<https://sumus2013.exblog.jp>



「雨後」(マロニエの樹、パリ) 2017年 F15



「空」(鳥の巣) 2017年 F15

ギャラリートーク 4月17日(火) 19:00から、新潟絵屋で林哲夫さんをお迎えしたトークを開催します。詳しくは裏面をご参照ください。

巡回展 本展は5/3(木祝)～27(日)まで、新潟市役所前の北書店に巡回します。詳しくは来月の絵屋便でお知らせします。